

平成31年度神戸市若手農漁業者チャレンジサポート事業 実施レポート (NO.1)

記入日： 2019年 7月 25日

団体名	伊川草花ストック部会		参加人数 ※名簿別紙	4名
実施した活動	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; width: 30px; height: 30px; display: flex; align-items: center; justify-content: center; margin: 0 auto;"> 視察 ・ 研修開催 </div>	実施日 実施期間	2019年 7月12日～13日	
活動のテーマ	各種苗会社の新品種の展示会の参加			
実施内容 ①視察先・視察内容 ②研修概要・講師	①長野県、山梨県 サカタのタネ、ミヨシ、住化農業資材、ムラカミシード、タキイ種苗等の種苗会社の新品種展示会 ②各種苗会社の新品種の情報収集			
実施目的	トルコギキョウの新品種導入や生産コスト削減の情報収集のため。			
活動写真				
活動所感	各種苗会社の展示会にて新品種の生育の特性等をメーカー担当者から直接話を聞いたり、実際に花色、草姿等を確認する事で、様々な情報収集をすることが出来た。 また、花卉生産に関わる生産資材の情報収集もすることが出来た。			
今後に 活かしたい事	トルコギキョウの新品種の導入予定。 (住化農業資材、ムラカミシード、タキイ種苗) サカタのタネの資材(液肥等)の活用検討。			

平成31年度神戸市若手農漁業者チャレンジサポート事業 実施レポート (NO.2)

記入日： 年 月 日

団体名	北神戸農業青年クラブ		参加人数 ※名簿別紙	5
実施した活動	視察 ・ 研修開催	実施日 実施期間	令和元年年	9月 2日
活動のテーマ	素直な心で良いことを吸収し、すぐやる農業ステップアップ！			
実施内容 ①視察先・視察内容 ②研修概要・講師	①視察先 京都機械工具株式会社（京都府久世郡久御山町佐山新開地128） 伊賀の里モクモク手づくりファーム（三重県伊賀市西湯舟3609） ②内 容 ①車中研修 すまいるふぁーむ藤本（兵庫県農業経営士 藤本 耕司氏） 研修テーマ『農家を継ぐ～藤本家の場合』 ②京都機械工具株式会社 研修テーマ『農機具整備に使える整備道具について』 ③伊賀の里モクモク手づくりファーム 研修テーマ『消費者ニーズに即した加工品開発』			
実施目的	北神戸農業青年クラブ員は、施設野菜、酪農家、6次産業、露地野菜、露地花き、水稲など経営類型多岐にわたる。また就農体系も専業農家子弟、新規参入者、第二種兼業農家と様々な人材で構成されている。 そこでクラブ員共通の課題である、『経営移譲』、『農機具整備』、『消費者ニーズに即した農業』を学ぶために、本研修を計画した。			
活動写真				
	①車中研修 講師 藤本耕司氏	②京都機械工具 株式会社	①伊賀の里 モクモク手づくりファーム	
活動所感	①車中研修 講師 藤本 耕司氏 藤本氏は、父親も兵庫県農業経営士であり、親子2代で兵庫県の農業振興に貢献されている。藤本氏自身、他産業に従事した後就農し、父親の経営類型と違ういちごに栽培に取り組み、経営移譲を受けるにあたり親子でお互い納得するまで話し合いを行い経営以上を受けたことのお話を伺った。じっくりお話を伺い、質疑応答も十分できた。 ②京都機械工具株式会社 農機具の整備・点検に使う工具について目的に応じた素材や形状、工具の使用期間など普段規格だけで購入していたので大変参考になった。 ③伊賀の里 モクモク手づくりファーム 松坂豚の知名度アップのためソーセージ体験施設からスタートし、養豚農家、元JA職員の幹と信頼によって難関に立ち向かって気づいたこと。組織が大きくなり、関係団体の数も増えたことで、目的として『北極星』の目標を立てる（消費者も含めて誰もが同じ方向で共感できる目標）ことで、想いが実現すると研修を受けた。			
今後に 活かしたい事	経営移譲は、農家子弟で近い将来、行うクラブ員や新規参入者であっても自分の子供などの後継者にいずれ来るため、お互い納得してよく研究して行いたい。 農機具については、目的に応じた規格だけでなく、用途に耐えられる工具を活用し、農業機械を大事に使い、コスト低減を図っていききたい。 6次産業化に取り組んでいるクラブ員が現在2名いるが、しっかりした目標と実現に向けた計画を作成して取組を検討し収益アップと消費者へのPRを行っていききたい。			

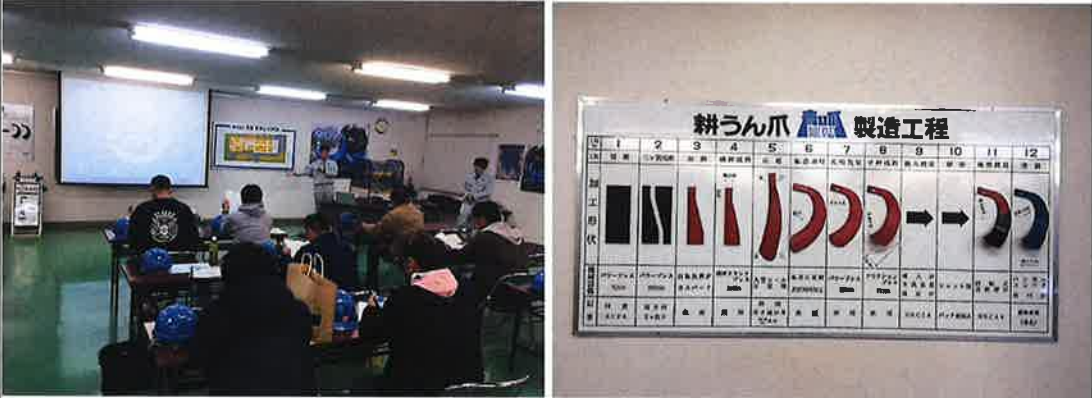
平成31年度神戸市若手農漁業者チャレンジサポート事業 実施レポート (NO.3)

記入日： 2019年 9月30日

団体名	伊川鉢物部会		参加人数 ※名簿別紙	8名
実施した活動	視察・研修開催	実施日 実施期間	2019年 9月 25日	
活動のテーマ	各種苗会社の新品種の展示会の参加			
実施内容 ①視察先・視察内容 ②研修概要・講師	①長野県、山梨県 サカタのタネ、ミヨシ、M&Bフローラ、タキイ種苗、ハクサン等の種苗会社の新品種展示会 ②各種苗会社の新品種と生産資材の情報収集			
実施目的	花壇苗の新品種導入や生産コスト削減の情報収集のため。			
活動写真				
活動所感	各種苗会社の展示会にて新品種の生育の特性等をメーカー担当者から直接話を聞いたり、実際に花色、草姿等を確認する事で、様々な情報収集をすることが出来た。 また、花卉生産に関わる生産資材の情報収集もすることが出来た。			
今後に 活かしたい事	ピオラ、インパチェンスの新品種の試験導入予定。(M&Bフローラ) 生産資材(LED防蛾灯)の導入検討。			

平成31年度神戸市若手農漁業者チャレンジサポート 事業レポート (NO.4)

記入日： 2019年 12月 3日

団体名	伊川野菜青年部		参加人数 ※名簿別紙	10名
実施した活動	視察・研修開催	実施日 実施期間	2019年 11月 26日 ~ 27日	
活動のテーマ	耕うん爪の研修及び作業効率向上のための農機の情報収集			
実施内容 ①視察先・視察内容 ②研修概要・講師	①株式会社太陽・・・耕うん爪の工場見学と耕うん爪の商品説明。 ②耕うん爪の製造工程の見学。用途に応じた爪の使い方と土づくりの研修。			
実施目的	よく使用するトラクターの耕うん爪について改めて研修する事により、新たな知識の獲得や新商品の情報収集を目的とする。			
活動写真				
活動所感	商品別の耕うん爪の特性等を学ぶことが出来た。 また、耕うん爪以外にも野菜の袋詰機の取り扱いもあり出荷作業効率の向上の面で興味を抱く生産者が多数おり、出荷資材の情報収集もすることが出来た。			
今後に活かしたい事	各生産者の生産品目、土壌に適した耕うん爪を使用する事により、より効果的に生産活動を行なえるようにしていきたい。また、野菜袋詰機のような出荷作業効率を向上できるような資材も導入していきたい生産規模を拡大していきたい。			

平成31年度神戸市若手農漁業者チャレンジサポート事業 実施レポート (NO.5)

記入日：2020年1月9日

団体名	有野莓部会青年部		参加人数 ※名簿別紙	7名
実施した活動	視察	研修開催	実施日 実施期間	2019年11月19日
活動のテーマ	二郎いちごの栽培後継者として、他産地を見学し莓の栽培技術や経営向上を図る。			
実施内容 ①視察先・視察内容 ②研修概要・講師	①小林農園（鳥取県東伯郡）：ビニールハウスにて莓の高設栽培を視察に行く。また鳥取県は日照時間が他府県に比べ極端に短いなかで、どのような工夫をして品質のよい莓を生産しているかを勉強する。			
実施目的	莓の他産地を視察・見学することで、栽培技術や品種改良・品質向上を学び自らの栽培に生かす。			
活動写真				
活動所感	<p>鳥取県は全国的に比べて日照時間が短いため、莓栽培には大変厳しい環境であるが、その中でも工夫を凝らし品質の良い莓を収穫していた。</p> <p>定植してから24時間連続で青色のLED照射することで、生育に遅れがでない。コスト計算もされた中で、連続照射をしていた。</p> <p>また、暖房機の使い方にも工夫をしており、明け方の温度を無理に上げるのではなく朝と夕方は6～7℃に保つようにし、昼間も10℃ほどと、最低の気温が低くならないように気を付けているとのことだった。</p> <p>特に苗づくりについては、定植ぎりぎりまでランナーを繋げたままにしておくことでタンソになりにくい、とのことであった。いずれも、二郎でも試することができるような内容であったと考える。</p>			
今後に活かしたい事	<p>日照時間が短いことに対するLED照射や、夏場の暑さ対策のためお盆時期までランナーをつないだままにしていること、有機栽培により薄めの液肥をたくさん流すなど、味が落ちない工夫をし、その都度チェックをしている。まだ若い経営者であるため、青年部員たちは自分に置き換えて考えることができたと思う。</p> <p>お聞きした栽培管理について、いずれも参考になる内容であり、試してみる価値があると思う。</p>			

平成31年度神戸市若手農漁業者チャレンジサポート事業 実施レポート (NO.6)

記入日： 2020年 2月6日

団体名	伊川健太郎トマト部会		参加人数 ※名簿別紙	6
実施した活動	視察・研修開催	実施日 実施期間	2020年 2月 4~5日	
活動のテーマ	トマト産地の選果場視察と圃場見学			
実施内容 ①視察先・視察内容 ②研修概要・講師	①八代地域農業協同組合の選果場の視察と生産者圃場の視察 ②玉名市大浜町農業協同組合の選果場と生産者圃場の視察			
実施目的	他産地の選果基準や栽培方法を学ぶ事で他産地の状況把握や栽培技術の向上を図る。			
活動写真				
活動所感	<p>八代地域農業協同組合は熊本で一番の選果基準で出荷を行っており、伊川健太郎トマトの選果基準より厳しく選果を行っていた。生産者の圃場見学では、土耕栽培の長段採りで栽培しており、栽培品種や追肥のやり方など参加者から活発な質問があった。玉名市大浜町農業協同組合では選果の仕組みや選果場の運営方法について学んだ。生産者圃場では栽培方法は少し異なることから八代同様に活発な質問があった。</p>			
今後に活かしたい事	<p>他産地では規模が多い事以外にも1人当たりの栽培管理面積が伊川健太郎トマトよりも遥かに多く、日ごろの管理方法や作業効率化により、栽培面積を増加させる事が可能と感じている。また、他産地の選果基準を見る事で生産者間でもより良いトマト栽培への思いが強くなったと思われる。 伊川健太郎トマト部会では実生苗で栽培をしているが、接ぎ木苗の導入による出荷期間の延長も検討している。</p>			